



RIKKYO SECOND STAGE

Contents

- P1 立教セカンドステージ大学で「一生の財産」を
- P2～3 本科生の素顔
- P4～5 本科ゼミナール紹介
- P6 専攻科生の素顔・専攻科ゼミナール紹介
- P7 図書館紹介
- P8 入学式・その他施設紹介

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。



発行：立教セカンドステージ大学
 編集責任：長 有紀枝 編集：ニューズレター27号委員会
 発行日：2021年9月24日
 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1



立教セカンドステージ大学で「一生の財産」を

立教セカンドステージ大学学長 (立教大学総長) 西原 廉太



在学生のみなさんの学びはいかがでしょうか。今年度も頻繁に発令される緊急事態宣言の中、昨年度に引き続きオンラインによる授業が中心となり、ゼミナールをはじめ、顔と顔を合わせた教室でのディスカッションなどを経験いただけなのは残念ではありますが、一線級の研究者による知の刺激、クオリティはむしろ

対面時以上のものがあると確信しています。

立教セカンドステージ大学は単なる生涯学習の場や文化講座プログラムではありません。そうではなく、「学び直し」と「再チャレンジ」の〈プラットフォーム〉として、私たちは位置づけています。シニア世代の方々に、〈セカンドステージの生き方〉を自分自身でデザインし、修了後は、再び社会に参加し、貢献する多様な担い手として、その後の人生をいきいきと過ごしていただく。その契機を提供することが、設立以来の私たちの思いです。

また、学び直し、再チャレンジに加えて、もう一つ重要な要素は「異世代共学」です。在学生のみなさんには、立教セカンドステージ大学が提供する科目群に加えて、立教大学の全学共通科目も受講いただいています。若い学生たちも、セカンドステージ大学のみなさんから、さまざまな刺激を受けています。遠慮されることなく、若い学生たちに、みなさんがこれまでの人生の歩みの中で紡がれてきた「生ける言葉」を伝えてください。

立教セカンドステージ大学での課題は、みなさんが蓄積されてきた知識と経験を、今一度ふりかえりつつ、また別の視点から見つめ直し、自分だけの言葉に置き直し、新たな可能性を築いてくださることにあります。みなさんのこれまでの歩みを、自分という存在を越えたより大きな文脈の中に置いて再解釈することで、最終的には「私は何者なのか」という問いに取り組んでいただきます。

12期生の五十嵐訓子さんが「50才の目標から一生の財産へ」と題して書かれた、この「言葉」に私は感銘を受けました。

「図書館で見つけた1冊の本。「自分史の書き方」は、立花隆さんがRSSCでの授業内容をまとめた本です。50才になったらRSSCに入学しようと決意。長く続く闘病生活を学問で振り返ろうと入学したのですが、もっと深い学びと発見がありました。リベラルアーツ教育の伝統に触れ、真理の探究から社会の問題へと興味が広がり、1年間のゼミを通して自分の人生の課題を論文にまとめることができました。これらの学びは独学では得られないものです。先生方との対話や学友たちとの交流で、人は何歳になっても成長できるのだと実感しました。卒業間際に新型コロナの影響で、世の中が急が変わってしまっても、RSSCでの経験が私を助けてくれました。卒業後も、尊敬する先生たちや学友たちとリモートで繋がり、知的好奇心の探求は今も続いています。終わることのないライフワークを得たと深く感謝しています」

みなさんも、この立教セカンドステージ大学で、「一生の財産」を自らのものとしてください。お一人おひとりの学びと生活が豊かに恵まれたものとなりますように、心より願っています。

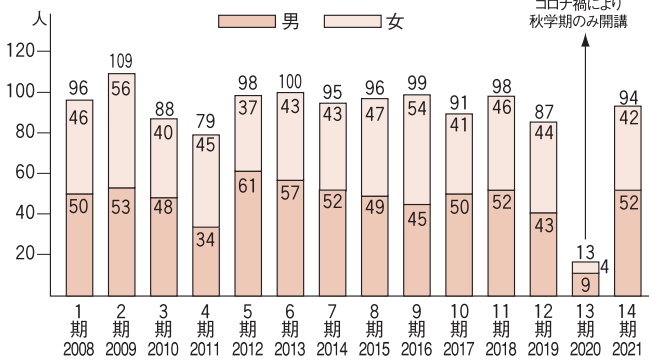
本科生の素顔

コロナ禍の中入学した、
本科生の今を
のぞいてみましょう

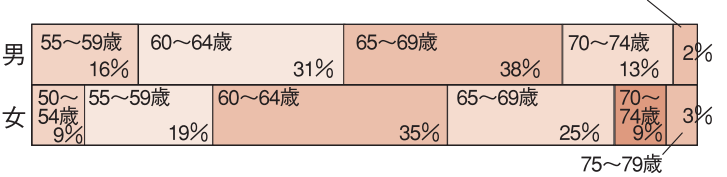
<受講生像>

入学者数：本科94名 専攻科25名
男女比率：本科 男性55% 女性45%
 専攻科 男性72% 女性28%
平均年齢：本科 64歳（男性65歳、女性63歳）
 * 最年少50歳、最年長77歳
 専攻科 68歳（男性70歳、女性65歳）
 * 最年少56歳 最年長83歳

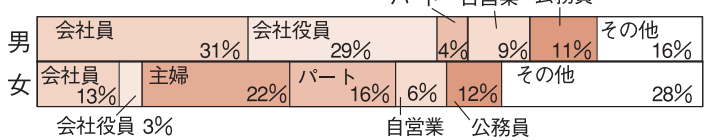
入学者数推移



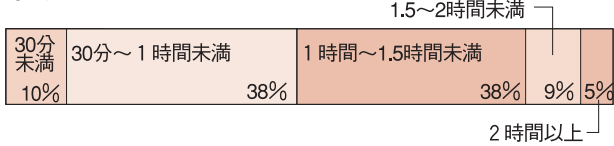
年齢



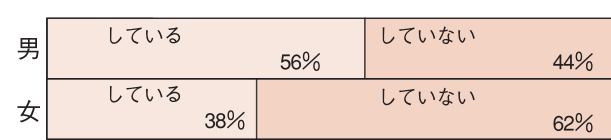
現在の職業・元の職業



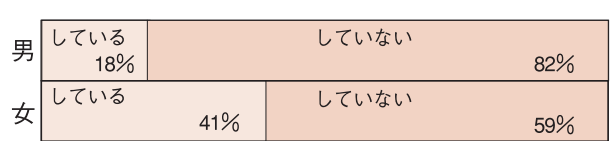
通学時間



仕事状況



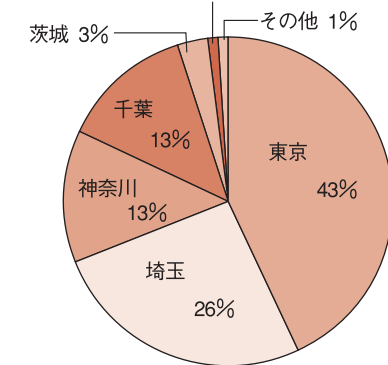
ボランティア活動



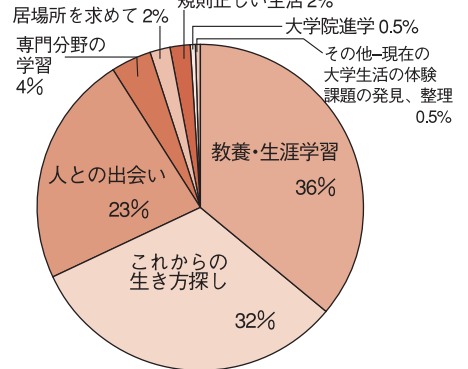
ボランティア活動の内容

・福祉や健康イベントの手伝い・東北復興支援活動・海外難民古着支援プロジェクト・食品購入のフェアトレード・渋谷区障害者運動会支援・スペイン語翻訳・町会・ロータリークラブ・まちづくり協議会・日赤奉仕団・いのちの電話相談員・訪問朗読・小学校の絵本読み聞かせ・子ども会役員・子供食堂支援・アムネスティインターナショナル・小学生の放課後算数教室・赤十字・学習支援

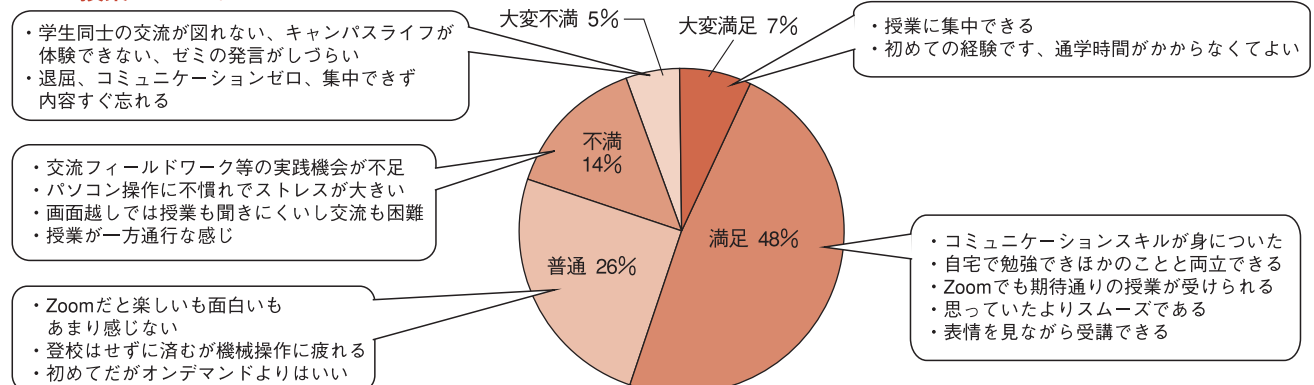
居住地



入学の動機



Zoom授業について



入学後変化したこと

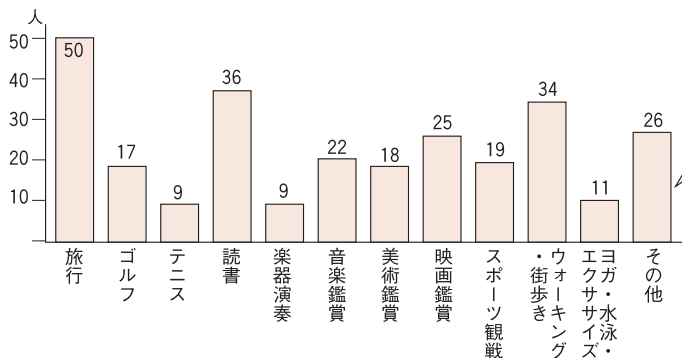
- ・入学前よりはるかに頭を使うようになった
- ・自分が意外にまじめだと気付きました
- ・外出が減り体重増加、気分が滅入る
- ・学ぶことは楽しいと改めて思う
- ・規則正しい生活になった・日常に緊張感・充実感！！
- ・規則正しい生活になりメリハリが出来た
- ・以前より本や新聞を読むようになった
- ・読書量が増えた
- ・3連続でオンライン授業だと眼精疲労が酷い
- ・時間の使い方を意識するようになった
- ・挑戦するようになった
- ・異業種の人との出会い、意欲の高さに刺激を受けやる気が高まった
- ・人を思う範囲が広がった気がします
- ・良くも悪くも毎日が忙しくなった
- ・いろいろな会議で意見を言わないと気がすまなくなってきた

フリーコメント

- ・キャンパス内の植栽が良く手入れされ、清掃されてきれいなことに感激
- ・修了論文を頑張りたい
- ・講義を聞いたり他の方の意見を聞いて自分に足りないものや欠けていることに気づく。それはつらい事でもあるけれど大事にしたい
- ・人生の後半で体系的に学べる機会を得たことに感謝しながらこの1年を大切に過ごしたい
- ・本来のキャンパスライフを謳歌したい
- ・切に願うのは残る人生時間、真に生きるために必要で楽しいアクティブなカリキュラム
- ・コロナ禍でやむを得ないとはいえ1人でラジオ講座を聞いているような毎日
- ・コロナが恨めしい
- ・すべてオンラインというのはやっぱり味気ない
- ・ゼミの仲間に良い刺激を受けている
- ・リアルでのゼミ活動や講義が待ち遠しい
- ・歓迎パーティや清里合宿などのイベントがオンラインになったことは非常に残念です
- ・セカンドステージの皆さんの積極的な発言、行動にとっても刺激を受けている
- ・授業や委員会を通じていろんな考えを持った方たちとの交流はとても刺激的で面白い
- ・先生方の授業はとてもわかりやすい

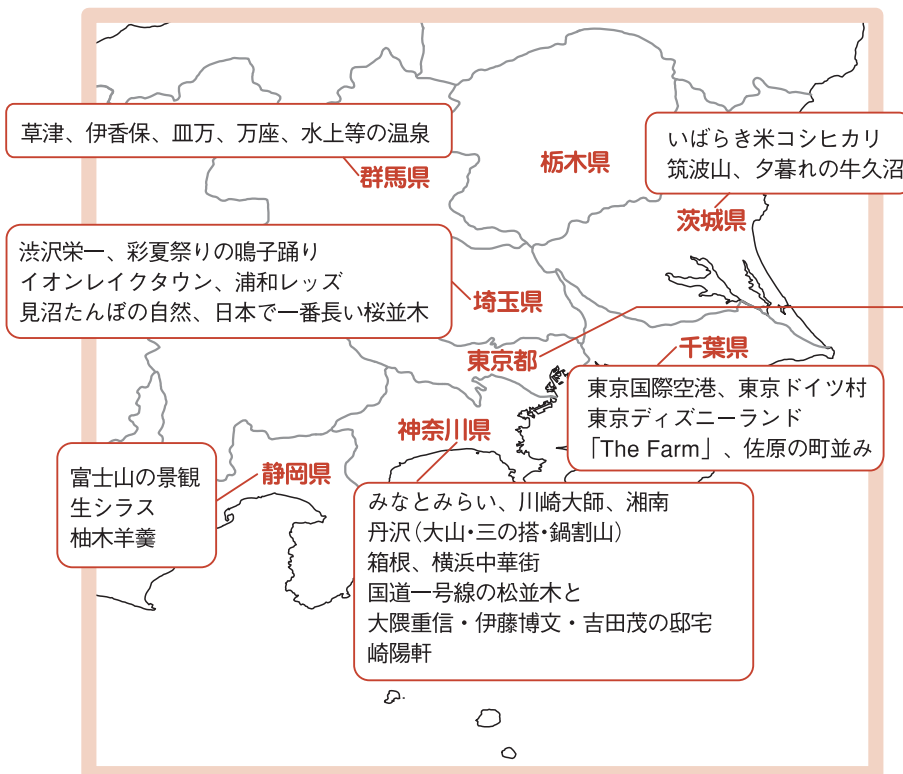
本科生・専攻科生に聞きました

趣味・特技（複数回答）



ミシン・木工・庭の手入れ・ドッグスポーツ・茶道(裏千家)・観劇・オペラ鑑賞・手巻き寿司作り・日本舞踊・エコクラフト作成・つまみ細工・絵手紙・手芸・水彩画・電子工作・3Dプリンター・ガーデニング・写真・ハイキング・呑み歩き・ダンス・山スキー・ランニング・クラフト・映画制作・スキー・自転車・温泉・生け花・フラワーアレンジメント

地元自慢 食べ物・観光など



その他：

山形：出羽三山の即身仏

高知：鯉のたたき

秋田：きりたんぼ鍋、秋田犬

交通の便がいい
ウルトラマン商店街、柴又公園や木々や運河が多く散歩に困らない
井之頭公園、光が丘公園、玉川上水 落合川、湧水や虫、六都科学館 田無神社、ごま大学かりん糖 ぶりかけ納豆、もんじゃ焼き レインボーブリッジ、夜景 オリンピック選手村 立花隆さんの猫ビル 下町地元の人が親切 高齢者福祉が手厚い

本科ゼミナール紹介

立教セカンドステージ大学の大きな特徴に、全受講生が参加するゼミナールがあります。本年は個性豊かな9ゼミがオンライン授業にもかかわらず元気に活動しています！



阿部ゼミ 「共に学ぶ楽しい仲間」

《阿部 治先生》コロナ禍により未だ対面がかなわないにもかかわらず9名の9名は皆生き生きとしており、とにかく仲が良い。全員が積極的に参加し、相互に助け合い、和気あいあいとしたゼミはとても居心地が良くつい時間が延びてしまう。必然的にオンラインではあるが飲み会も行われる。そこで語られることを通じて、個性派揃いであることを互いに理解し、リスペクトもしている。このようなゼミ生たちの修了論文のテーマは当然のことながら各自の問題意識を反映して実に多様かつ魅力的である。私もゼミ生と共に楽しく学んでいくつもりだ。

【受講生より】阿部ゼミはチームワークの良いゼミです。ゼミを率いる阿部治先生のもと、皆が気軽に相談し合い、分からないことは教え合えるような、和やかな雰囲気があります。一方で、知的好奇心が旺盛で向学心に燃えるゼミ生が揃っています。サブゼミでは毎回持ち回りで企画・進行をおこない、互いに刺激し合いながら充実した時間を共有しています。オンラインでも少しずつメンバーの人となりが分かってきましたが、対面で集い、語り合える日が楽しみです。

上田信ゼミ 「多種多様な人材の宝庫」

《上田 信先生》「一人はみんなのために、みんなは一人のために」がこのゼミナールのモットー。デュマの『三銃士』の決め台詞です。セカンドステージへの第一歩は、まず視野を広げるところから。手始めに各人が、いま一番興味を持っていることを語りあったあと、一人が「みんな」にぜひ読んでほしい1冊の本を紹介し、その魅力をポップに表現しました。あるものは行く人の目を射止める印象的な言葉、あるものは彩り豊かなケーキを思わせる色使い、心にしみこむ写真など、個性的な作品が並びました。さあ7月、いよいよ修了論文のテーマを力を入れて掘り下げていきます。

【受講生より】まさに人材宝庫のゼミ。経営コンサル、会計検査院、社会福祉協議会、高校教師、雑誌編集、内視鏡検査室、ミャンマー駐在、銀行員、オリパラボランティア、市役所、会社員などなど、セカンドステージ大学ならではのゼミ生11人の精鋭チームです。各自の経験や知識で議論はいつも拡散気味。上田先生もご自分の中国史分野のみならず興味のあるままに議論はあちらこちら。このまま行ったらゼミはどこへ？修了論文の行方は？乞うご期待！



大野ゼミ 「池袋から未来を見つめる個性派集団」

《大野 久先生》大野ゼミには50代から70代まで11名の受講生が在籍しています。私もセカンドステージ大学の本科ゼミは今年度が初めての担当です。これまで、修了論文の構想発表と並行して、それ以外に受講生の興味のあるテーマについてのプレゼンや、サブゼミでのビブリオバトルを行ってきました。非常に幅広いこれまでの社会経験や知識をお持ちの方、また、あくなき好奇心をお持ちの方などいらして、大変に興味深い内容についての議論で盛り上がっています。私自身も大いに刺激を受けています。今後の展開に大いに期待するところです。

【受講生より】発達心理学の権威でありトークの達人である大野先生を囲むのは、RSSCに希望を抱く精鋭11名。ゼミ生は、お互いまだ画面の中の顔しか知らないが、各分野で活躍され、豊富な知識を有する個性派揃いのような。セカンドステージの目的は様々、遠く宇宙を見つめる人、まずはPCを使いこなしたい人、多様なメンバーが毎週木曜17:10に集結して、楽しく交流をしている。歌劇鑑賞会、ワイン文化の旅、外部講師の招聘... サブゼミの野望は尽きない。大野ゼミ、楽しいですよ！

栗田ゼミ 「個性あふれる明るいワンチーム」

《栗田 和明先生》RSSCのゼミの楽しみは、メンバーもテーマも多様であることだ。文学部史学科日本史専攻で近世史ゼミに出席すれば、予想通りの話題が出てくる。しかし、RSSCのゼミではそうはいかない。私自身は、専門は物理→生物→文化人類学と変わり、所属も理学部→博物館→文学部と移った。結果として話題の引き出しだけは多くなったが、それでもさっぱり分からないことも多い。その一つは、アイドルだ。BEYOOOOONDSとか、関ジャニ∞とか、そもそもどう読むのか不明だ（その他にも不得意分野は多いが、秘します）。こうした話題にさらされることで、お互いに会話の間口をさらに広げたい。

【受講生より】文化人類学がご専門の栗田和明先生のもと、キャリアの異なる11名で構成されています。Zoom越しの緊張感ある出会いの日、栗田先生から「ひらめきは三上（電車、枕上、トイレ）」のお言葉により修了論文作成に向けたゼミ活動がスタートしました。春学期のサブゼミでは、東京オリンピック開催・移民難民受け入れ・ハラスメントを取り上げ、異なる経験や立場から発せられる意見を共有して学びを深めています。対面ができずもどかしい中、PCや図書館の使い方等の情報交換をして、孤立しがちな状況を克服できるワンチームになりました。栗田先生の温かく適格な助言を頂きながら、論文完成を目指します。





佐々木ゼミ 「Warm heart but Cool head」

《佐々木 一也先生》私のゼミでは、私の専門分野である哲学の対話の精神に基づき、ゼミ生全員で各人の修了論文をそのテーマに沿ってより普遍的な真実に近づけることを重視しています。各人の論文を皆で作りに上げるという精神です。ゼミ生の皆さんも哲学を少し意識して、興味あることを調べるだけでなく、考察によってここまで人生を生きてきた自分にとっての意味を見いだそうと努力

力しておられます。今は、テーマが少しずつ固まりつつある段階ですが、冬になる頃にはそれぞれ深みのある内容を湛えた論文という形で結実することを今から楽しみにしています。

【受講生より】佐々木ゼミでは、今までの人生経験で直面してきたさまざまな社会問題を中心に話し合っています。特に貧困、食、親との関係など子供にかかわる諸問題については、愛情溢れる熱い思いが伝わってきます。先人は学問を志す若者に対して、冷静な分析は必要だが、社会に貢献しようという暖かい心がなければならぬとCool head but Warm heartと説いたそうです。我ら熟年学生は既に社会貢献意欲十分ですので、どうすれば思いを実現できるか、みんなで議論を重ねていきます。

野田ゼミ 「個性の集まり」

《野田 研一先生》例年どおりではない春にも桜は咲きました。ゼミもZoom上ながら本格的に始まりました。モニターに居並ぶ顔は文字どおりTalking Heads。しかしながら、自分を語り、自説を展開し、笑いを誘う。どこかに節度を保ちながら、質問し、感想を語る。「社会的距離」を測りつつ交換される見解と見識。その行き交いを、自分の声をミュートにして私は愉しみます。「仮想現実」どころか、これぞ現実。「見ず知らず」ではないのに遠い。「遠い」けれども知っている。対面が実現したらきつと感無量でしょう。いましばらく待ちましょう。



【受講生より】野田ゼミは、先生指導のお陰で、本ゼミ・サブゼミに加え、オンライン飲み会と全力で春学期を駆け抜けました。写真は、サブゼミのビブリオバトルの様子、みんなの楽しそうなゼミの雰囲気伝わりますね。また、ゼミは、シニア向けオンラインツールガイド等をRSSC全体に共同利用OKで情報発信することにも努めてきました。ゼミ生8人、全員アイデアの宝庫、これからも他ゼミと交流の輪を拡げ、充実した学生生活を満喫したいです。



平賀ゼミ 「輝き続ける二十四の瞳」

《平賀 正子先生》コロナ禍のためゼミがオンラインで始まる事態となった。Zoomを覚え、どのようにしたら今までのような和気藹々の雰囲気を作れるだろうかと不安だった。サブゼミを使い、愛読書による自己紹介に加え、二巡目には、パワポや写真などで特技や趣味を発表しあった。対面とは異次元だが、より深いレベルで打ち解けた。本ゼミでは、鋭い質問が次々に出てくる。終わりのベルが鳴

らないのをよいことに、つつい遅くまで続けてしまう。「誰が生徒か先生か」——受講生11名教員1名——密かに「二十四の瞳」と名付けた今年のゼミ。皆さんのキラキラ輝く瞳に、早く会いたい！

【受講生より】著名な言語学者である平賀正子先生の下、男性6名、女性5名で構成される平賀ゼミは、エンジニア、旅行社、主婦、商社、大学教員、ピアノ教師など様々な知識と経験を持った仲間たちです。修了論文についても慣れないオンライン授業に多少戸惑いながらも、データ収集方法から文献整理の仕方まで、先生の丁寧なご指導により、みんなが助け合いながら夫々が個性あふれる知的テーマに取り組み始めています。「自由の学府」での出会いを大切に、これからの人生を更に有意義なものにして行くためにスキルアップを図る毎日です。まずはコロナが収束し、酒豪で鳴らす先生にお手合わせ願うのが、みんなの第一目標です。

松本ゼミ 「個性豊かな魅了的な集い」

《松本 康先生》今年度から始まった松本ゼミですが、あいにくコロナ禍で対面授業は適わず、最初からZoom meetingで進めております。各自の自己紹介から始まり、話題はおのずと修了論文に。そこで大学発行の『Master of Writing』と松本ゼミ版「論文の書き方マニュアル」をもとにした論文の書き方講座を間に挟みつつ、この間、各自の論文テーマのアイデア出しと、論文構想発表を進めてきています。アイデア出しは1回で全員発言、論文構想発表は、1巡目が1回に5人ずつ、2巡目・3巡目は1回に3人ずつ発表してもらっています。テーマは千差万別ですが、なによりもオリジナリティを大切にしていきたいと思っています。



【受講生より】松本ゼミは、日本都市社会学会の会長を務められた社会学者松本康先生の基に不思議な糸に導かれ集った男性6名女性4名の個性豊かで魅了的なメンバーで構成されています。個々のパーソナリティは驚くほど異なりますが、「本ゼミ」は松本先生の厳密に計画された論文完成手法により全員が修了論文の完成に着手と進めていると共に「アフターゼミ」では社会経験豊富な大人の風格と優しさに彩られながらシナジーを形成しつつある魅了的なゼミです。



松山ゼミ 「多種多様で多彩」

《松山 伸一先生》松山ゼミは、若さと健康と美にあふれる女性5名と男性5名によって構成されています。サラリーマンとして、経営者として、歌手として、妻として、母として、本当にたくさんのことを成し遂げられてこられた方ばかりです。気がつけば無我夢中で駆け抜けてきた数十年、このあたりで少し休んで自分自身をいたわりたいと思うのが普通ですが、間髪を入れずに、さらに磨きをかけてもうひと花も二花も咲

かせる準備に取りかかられています。つい先ごろまでは私を含めてみなさん知らない者同士でしたが、出会ってすぐに打ち解けて、ともに集い語らうゼミで心地よい刺激を受けながら、楽しいひと時を過ごされています。

【受講生より】松山ゼミでは、10分程度の連絡確認後、修了論文に関する構想を1名15分程度の発表を2名行った後に、後半は各人のこれまでに経験してきたことなどを中心に、感動した歌や体験・ライフワーク等を発表する時間に充てています。この時間は、ゼミ生の人生を感じることができ親睦が深まると同時に、世界観を広めることに繋がります。また非常に有意義な時間の共有であり、論文作成への大きなヒントになるものです。

専攻科生の素顔

2021年度の専攻科生の仲間は、どんな人たちでしょうか？アンケートを実施し、17名の方から回答をいただきました。

年齢

55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳～
6%	29%	35%	6%	6%	18%

仕事（自営業含む）：している 6名 していない 11名

ボランティア活動：している 8名 していない 9名

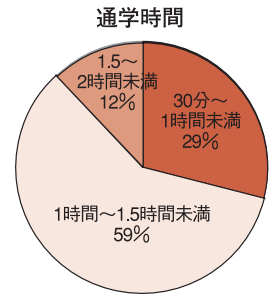
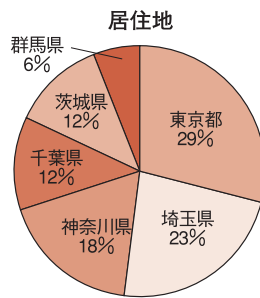
現・元職業：会社員 6名 公務員 6名

本科生へのアドバイス

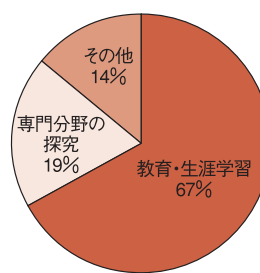
- ・受講数を多くし過ぎて疲れないように注意
- ・ぜひ専攻科に進みキャンパスライフと修了論文を楽しんでください
- ・修了論文は学術論文ではない、テーマは自分が興味あるものを選ぶのが長続きのコツ

フリーコメント

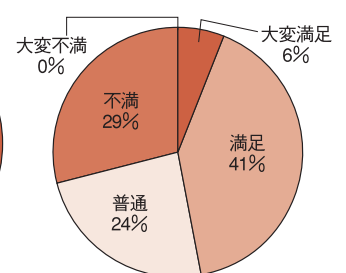
- ・授業もイベントもオンライン、コロナ禍でしかたないが楽しくない
- ・本科で経験した清里合宿が一番の思い出
- ・専攻科も大変刺激的。「学問の世界B」(理系)が期待を超える内容に満足
- ・1日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、通常の授業ができる日が来ることを願っています
- ・今の状況を笑って語れる時期が来れば良いですね



専攻科に進んだ動機



Zoom授業の満足度は？



専攻科ゼミナール紹介



上田恵介ゼミ 「親分鳥+8羽の渡り鳥」

《上田 恵介先生》専攻科の上田ゼミは男性6名、女性2名のゼミです。入学時点からオンラインで、まだ対面では誰にもお目にかかっていないという、ある意味「異常事態下」の2021年度春学期です。最初はなかなかZoomの使用に慣れない方もおられました（恥ずかしながら、私もその一人です）、何とか使い方もマスターして、楽しくゼミをやっております。これまでに皆が本科の時の修了論文を発表していただきました。テーマも多彩で、

どれも興味深い内容でした。RSSCは教員と受講生がお互いに学び合う場です。コロナが収束して、対面ゼミで活発に議論できる時が来るのを心待ちにしています。

【受講生より】鳥+生き物に限りない愛を注ぐ上田恵介先生の元で、自由に行動するゼミ生8人！唯一の共通項は「学びたい」という気持ち。年齢も前職もまちまちですが、そこが面白いところ。ちょっとした雑談にも含蓄があります。そこから新たな気づき発見、なんてことも。動物生態の話から夕飯の献立まで、様々な話題が飛び交うアットホームさが上田ゼミの真骨頂。オンラインゼミの今はまだまだ雌伏の時ですが、対面開始後はパワーアップしていることでしょう。

高橋ゼミ 「自由な市民をめざし、八重の調べがこだまする」

《高橋 輝暁先生》「人間は努力する限り迷うものだ」——これはドイツ近代の代表的詩人ゲーテの戯曲『ファウスト』にある言葉です。コロナ感染拡大で最初からオンラインのゼミになったにもかかわらず、いや、そうだからこそますます「学びの情熱」を燃やして修論作成に邁進しているみなさんの姿に、いつも以上に感銘を感じる毎週のゼミです。とはいえ、努力を重ねるほど、いろいろなことに気づいて、迷いも深まるのが「人間」です。勉学に限らず、先の見えない迷路にはまったときは、『ファウスト』を思い出してください。迷うことこそ努力している証拠だと。



【受講生より】ドイツ文学・哲学、教養論が専門の高橋先生の下、皆で対面での一杯を渴望しつつ、その日を忍耐強く待っている、男性6人女性2人が構成メンバーです。修了論文に向けて、先生のきめ細かな助言と優しさが横溢するコメントで薫陶を受けています。本ゼミの合間で行うサブゼミでは其々「とっておきの話」を披露し、その人なりを垣間見ることができて親密度もアップ。PCやZoom等の操作を教え合い、仲間としての絆も深まっています。

渡辺ゼミ 「Melting Chemistry」

《渡辺 信二先生》例年の通り、21年度の専攻科ゼミでも、自分が呼ばれた名前とかニックネームを最初に披露して、それでお互いを呼ぶよう提案したのですが、本年度は、いつの間にか、姓に「さん」をつける世間並みの呼び方になっています。これまでは、呼ばれた名前が通用したのですが、これもオンライン授業ばかりで、直に交わることが出来ないせいでしょうか。確かに、画面上で、ニックネームや「…ちゃん」とは言いづらいでしょうね。でも、呼び名の親密度が人間関係をさらに深めるので、

早く、対面授業ができるようにと願うばかりです。

【受講生より】専攻科・渡辺信二ゼミは、専攻科8名（男性6名、女性2名）から構成されています。渡辺先生のご提案で、皆さんニックネームを付けてメールやオンライン会話しています。ゼミメンバーは「シンジーズ」と呼ばれ、渡辺先生もファースト・ネームの「しんじ」で呼んでいます。米国の歴史や文化に見識が深く、興味深くお話を聞いています。春学期の期間にディベートを2セッション行いました。『智恵子抄』（高村光太郎、詩文）と『走れメロス』（太宰治、短編小説）が名作かどうか、名作であるとする言論と、そうではないとする言論でディベートを行いました。

図書館

池袋図書館

池袋図書館は、最大所蔵冊数200万冊の国内屈指の大学図書館で、国内外の新聞、雑誌、論文などを検索できる各種オンラインデータベースも整備されています。

RSSC受講生は、授業の参考文献、修了論文作成のための文献探しなどで多く利用しています。学修・研究活動のための支援活動が充実しており、立教大学の大学院生が図書館を上手に利用したレポート・論文作成についてのアドバイスをしているラーニングアドバイザーは、RSSC受講生も利用することができます。

「軽雑誌・新聞コーナー」では、全国紙からスポーツ紙まで置かれており、様々な分野の情報をチェックできます。

図書館の利用方法については、*Blackboardの「公開コース」で基本的な図書の探し方など、動画やスライドで確認

できます。また随時立教大学図書館Webサイトで、利用できるサービスの案内も配信されています。（*Blackboardは立教大学で提供している授業支援システム）

コロナ禍の図書サービスとして、従来の「来館型サービス」に加えて、学外からで

も利用可能な「非来館型サービス」も提供されています。代表的なサービスは、オンラインデータベースやオンラインジャーナル、ebookです（立教大学図書館WebサイトやBlackboardから利用方法が確認できます）。ラーニングアドバイザーについては、Zoomを使用したオンライン相談を行っています。

池袋図書館の利用について(7月現在)

よく利用する(週1回以上)	: 2人
利用したことがある	: 30人
利用したことがない	: 58名

新座図書館

新座図書館は、観光学部・コミュニティ福祉学部・現代心理学部および各研究科が中心となって利用する総合学習・研究図書館で、蔵書26万冊、閲覧席数543席を擁しています。新座市民の利用を受け入れており、地域連携の役割も果たしています。また、国連世界観光機関(UN

WTO) 寄託図書館としての機能を担っています。

新座図書館の利用について(7月現在)

よく利用する(週1回以上)	: 0人
利用したことがある	: 5人
利用したことがない	: 85名



RSSC受講生の声

- ・初めて利用した時、スタッフの方がとても親切に教えてくださいました。
- ・ラーニングアドバイザーの制度を利用したが、とても親切でよかった。
- ・広々とした環境で静かで過ごしやすい。
- ・毎日こんなところで勉強したい。
- ・操作に不慣れでも、親切に教えてくれる。
- ・蔵書が多く、検索システム、Wi-Fi環境もよい。
- ・緊急事態宣言で、図書館に行けないものと思っていました。(実際は利用可)
- ・新座図書館にしかない本も、OPACで池袋図書館に取り寄せてもらいました。



2021年度 入学式



学長の訓辞

4月3日(土)、立教セカンドステージ大学本科94名、専攻科25名の入学式が立教学院諸聖徒礼拝堂(チャペル)にて行われました。コロナ禍の中で入場人数を制限したため、一部別会場でのオンラインによる出席になりました。

荘厳なパイプオルガンの奏楽で始まり、西原廉太学長の訓辞、チャプレンのお言葉をいただき、入学の決意を新たにしました。



別会場での様子

RSSC受講生ラウンジ

オンライン授業が続く中、キャンパス内の施設利用がままならない状況ですが、私達に最も身近なRSSC受講生ラウンジを紹介します。2008年にセカンドステージ大学が開校した当時は、事務室と受講生ラウンジは、立教通りの椿ビルにあったようですが、2013年に現在の9号館1Fに移設されました。セカンドステージ大学事務室の正面にあり、2つのフロアに分かれています。打合せや軽食も可能で、常設のPCやプリンター、コピー機があり資料調査などに利用でき、また個人で利用できるロッカーもあり使い勝手は良さそうです。



メディアセンター

メディアセンター(8号館4F)は、高度情報化に適応した教育・研究の支援のために大学のICT環境を整備、推進する組織で、より豊かな学生生活が送れるようにICT活用を支援しています。例年、多くのRSSC受講生がPCの貸し出しや、PCの操作サポート等で利用しています。

コロナ禍においても、対面によるサポートとしてRSSC受講生向けに「RSSCメディアサポート」を設けており、オンライン授業等のサポートを受けることができます。

受講生の感想は、

- ・Zoomの仕方など、親切に根気よく教えてくれた。
- ・4月、5月は毎日のように通った。大変助かった。
- ・パソコン操作は不慣れなので、大切なサービスです。
- ・WordやZoomの資料共有の方法を教えてもらった。
- ・分からないことをピンポイントで教えてもらった。

等、オンラインの授業受講において、助けられた人が多かったようです。

その他、オンライン上では、Blackboardのセルラーニングや英語eラーニングシステムなども利用でき、個人学習にお勧めです。

ウエルカムパーティ

4月16日(金)オンラインで行われたウエルカムパーティは、受講生・教職員約100名が参加し、西原廉太学長による食前の祈りと乾杯の発声、余興を交えての教員の自己紹介後、各ゼミに分かれて交流を深めました。

ボランティアセンター

ボランティアセンター(5号館1F)は、学生がボランティアに参加できるよう、情報収集や企画の実施、ボランティアに関する相談など様々な取り組みをしています。ボランティア団体からの紹介はもとより、環境、教育、貧困等様々な分野で活動していますが、コロナ禍の今、活動が激しいのが現状です。ペットボトルキャップのリサイクル、古切手の寄付で得た収益はワクチン代金などに還元されます。セカンドステージ大学の皆さんも相談に行ってみたらいかがでしょう。



編集後記

パソコンの操作に悪戦苦闘しながら終了した春学期。画面越しに見る同期生の顔。いくつになっても人との出会いは貴重である。でも対面で会いたい。キャンパスでおしゃべりしたい。みんなの願いが叶いますように。

編集委員：大場広子、毛塚悟巳、高橋八郎、
森田剛年、山元悦夫、高野 毅、
小関栄一、山中洋子、荒井 茂
担当教員：上田 信